NPO 法人横浜日独協会　第１２回理事会議事録

１．日　　時　　2018 年 4 月 21 日（土）13:00～16：00
２．会　　場　　戸塚区民センターさくらプラザ４階創作室
３．理事総数　　21 名≪出席 15 名（内、議長委任 6 名)、欠席 6 名≫
４．出席者　　早瀬会長、能登副会長、向井副会長、坂井常務理事、小島常務理事、磯貝理事、中尾理事、寺澤理事、齊藤常務理事
議長委任：黒崎理事、ユーデック理事、成川理事、神永理事、南雲理事、佐藤理事
欠席者：山口常務理事、大久保理事、山岸理事、パネン理事、ゼーリヒ理事、藤田理事

５.議事の経過の概要及び議決の結果

定款第 33 条の定めにより早瀬会長が議長にあたる。

議長より議事録署名人の選任について、出席理事にはかったところ議長一任との意見があり、早瀬会長ならびに能登副会長、向井副会長を推薦することを提案し、満場一致で承認され、続いて審議に入った。

第 1 号議案　２０１７年度事業報告・決算報告について

１）2017 年度決算報告に関わる損失金の処理について、齊藤事務局長より配布資料に基づき経過報告、証憑書類等の検証、再発防止策について説明があった。現金「20,805 円」不足が生じた原因は、例会やイベントの際に行われた現金の授受、固定的支出に係わる立替払いあるいは仮払精算時の現金の授受の際の錯誤によって生じたものと思われる。

再発防止策としては、金銭授受の際の証憑書類の徹底、現金移動に伴う残高確認など確実な会計処理、月次処理並びに四半期ごとの会計担当以外の役員による会計処理のチェックが提案された。

なお、事務局長及び会計担当理事から会長宛の報告書と同様の文書を監事宛に提出することとした。

２）2017 年度事業報告書については、NPO 法人設立初年度の活動方針にもとづき、日独両国民の相互の協力で一定の成果が得られた。

３）2017 年度決算に伴う財務諸表（活動計算書、貸借対照表、財産目録）について、齊藤事務局長が預金残高証明金額を読み上げ確認した。高校生派遣事業に対す横浜市の助成金が未払として計上され、同事業に係わる役員短期借入金が流動負債に計上されていること、前述の損失金処理が管理費・雑費に計上されていることが説明され、科目ごとの決算額を読み上げ確認された。

決算の伴う監事監査（会計監査・業務監査）が来る 4 月 24 日（火)、神奈川大学戸

田研究室にて、戸田監事、四方田監事両名によって行われることが報告された。

以上、２０１７年度事業報告・決算報告について全理事一致して承認された。

第2号議案　２０１８年度事業計画・収支予算

１）2018年度の事業計画では、新たに、積極的に法人会員に対し、会員の拡大と事業内容の充実をめざし、バーデン・ヴュルテンベルク州に本社を置く当協会の法人会員を通じ幅広い交流を行っていくことや、ハンブルク市との交流についても受け入れ体制や予算化を充実させることとなった。

日独交流を神奈川県民にまで意識的に広げられるよう、東京に本部を置く「バーデン・ヴュルテンベルク会」（年会費3,000円）に当協会も加入する。

２）2018年度の予算については、事業の拡大・充実のための財源確保の一つに寄附金を広く会員等に呼びかけていくこととし、年間の目標値の１０万円を計上する。また、諸経費の大幅な減額は現実的ではないが節減の努力を行うこと、支出面では2017年度実績をやや上回る（ただし、少なくとも定期預金２０万円は次年度繰越を予定する）ことも予定する。

以上、2018年度事業計画・収支予算について全理事一致して承認された。

第3号議案及び第4号議案

両議案共通の「寄附金」については、まずその考え方を検討することとなった。当協会会員に呼びかけることと、会員以外にも広く支援者をもとめるためには、趣旨を明確にする必要がある。事務局が提出した「寄附申込書」は寄附金管理に必要な一つの様式。協会の事業全般への寄附なのか、例えばヤングクラブを支援するための指定寄附という選択も可能にする。ただし、寄附金管理には今まで以上に事務負担が重なるため、事務局体制の充実は欠かせない。

予算上に寄附金額の目標値を計上して、本年度より積極的に取り組んでいくこととなった。呼びかけの方法等は継続して検討していく。

以上、積極的に寄附金による資金調達の基本方針について全理事一致して承認された。

第5号議案　その他

〇ハンブルク委員会の体制について

第11回理事会において、中戸委員長から同委員会体制の再検討について提案があった。ハンブルク桜の女王は隔年で来日している。当協会とハンブルク独日協会は2014年に友好関係を維持し交流していくために覚書を取り交わしている。相互の交流事業を継続していくために現行のハンブルク委員会については、役員並びに会員から可能なかぎりハンブルクとの結びつきのある方を人選し委員として選任す

る。18 年度予算については事業を終えているが、予算書の日独関係団体連携事業に織り込まれている。

以上、ハンブルク委員会の体制充実について全理事一致して承認された。

以上により本日の議事を終了して、議長は閉会を宣した。

以上、この議事録が正確であることを証します。

２０１８年４月　　日

議　　長　　早瀬　勇

議事録署名人　　能登　崇

議事録署名人　　向井　稔